

みなさんは「ドッジボール」というスポーツをやったことはあるだろうか。きっと多くの方が小学校や中学校の頃の昼休みやレクリエーションで経験があると思う。実はドッジボールは日本代表が招集され、アジアカップが開催されるほどの立派なスポーツなのである。ではなぜ競技としてのドッジボールの知名度がこんなにも低いのか。本論文では競技ドッジボールがなぜ他スポーツより格下に見られるのかを明らかにする。この問いを明らかにすべく、ドッジボール元日本代表、そして栃木県のドッジボール協会理事長、栃木県ドッジボール協会副理事長、同じく副理事長、栃木県ドッジボール協会理事であり栃木県代表チーム代表と栃木県代表チーム監督の計6人にコンタクトをとりお話を伺った。第1章ではドッジボールの歴史や、ルールなどドッジボールについての解説。第2章ではドッジボール元日本代表の視点からのお話を。筆者もそうだが選手として感じてきたこと、考えたことを展開した。その中でドッジボールは中学校以降の部活動として存在していないため将来性がないと言えるということがわかった。第3章ではドッジボール協会の方々の視点から大会を運営していて感じたことなどのお話を伺った。するとプロ競技がないため、子ども達が知る環境がない。また小学校、中学校、高校のバックアップがないことも大きな問題だということがわかった。今回のインタビューを通してプロ競技化していないことがやはり他スポーツよりも競技ドッジボールが格下に見られる理由として大きいのではないかと感じた。加えてドッジボールの遊びとして有名すぎる絶妙な知名度やマルチボールの存在がプロ競技化への壁であると感じた。本論文では著者が経験者という点や元日本代表、ドッジボール協会へのインタビューからドッジボールがいわゆるメジャー・スポーツとの差異については明らかにすることができたため、他のマイナー・スポーツとの差異についても明らかにしていくことが望まれる。